

# 令和5年度 学校自己評価システムシート ( 県立越ヶ谷高等学校 定時制課程 )

E05

目指す学校像	基礎学力を身につけ、社会で主体的かつ前向きに生きることのできる人材の育成
--------	--------------------------------------

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

重点目標	1 生徒の基礎学力の充実に向けて、授業の改善を図る。 2 生徒の学校生活の充実に向けて、効果的な特別活動や教育相談等を行う。 3 定時制高校の教育活動の理解を深めるため、情報発信を行う。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価						
年度目標				年度評価(令和 年 月 日 現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な学習歴及び生育歴の生徒が多く在籍しているため、個々の生徒に応じた学習支援をさらに充実させる必要があり、将来の社会的自立と経済的な安定が望まれる。昨年度は、成績不振による退学者を大幅に減少させることができたので、さらなる学力のアップが課題である。</li> <li>県の支援事業等を活用し、外部機関の専門的な人材と連携すると共に教員を目指す若い人材の育成を含めた学習支援を行い、きめ細やかな個別指導を展開していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力の定着のため、授業の工夫改善に取り組む。</li> </ul>	1 授業公開や研究授業を実施しわかる授業の精度を高める。 ・アクティブラーニングや ICT 機器を効果的に活用し、コミュニケーション力や主体的に考える力を育成する。 2 観点別評価の基準等を検証し、指導と評価の一体化を共有し改善していく。	1 日々の授業を通して、対話的授業や ICT 機器等の効果的な活用 ・授業公開による授業工夫改善(年2回) ・少人数習熟度クラス等の授業形態の工夫(英語、体育:全学年) ・成績優良者の増加(昨年度平均23.6%) ・生徒授業アンケートによる理解度の向上(11月1月 昨年度91.7%) 2 観点別評価の基準の検証(教育課程委員会等)(昨年度 評価基準を2回調整)		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>県の支援事業を活用し、個別指導を充実させる。</li> </ul>	1 多文化共生推進事業を効果的に活用し、外国籍の生徒への日本語支援と学習指導を継続的に実践していく。 2 学習サポーター事業を活用して、授業での個別支援を充実させる。	1 外国籍の生徒への授業補助、日本語の補習授業等(多文化共生推進員:年間70日) ・定通教育振興会事業の補助金の活用(昨年度 日本語教材を購入) 2 学習サポーターを効果的に活用し、授業でチームティーチングにより、授業内容の理解度をアップさせる。(昨年度:学サポ5名)		
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事と進路指導等を連携させ、効果的に個々の生徒に付加価値を付け、自己肯定感を向上させるとともに進路未決定者を減少させることが課題である。</li> <li>また、転退学者を減少させるとともに様々な課題を抱えた生徒に対して、心に残る楽しい学校生活を送ることができるよう心のケアに努めることが先決である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活を充実させるために効果的な教育活動を展開する。</li> </ul>	1 学校行事等を通して、自己肯定感を向上させ、生徒参加率を増加させる。 2 外部機関等を積極的に活用し進路指導を組織的に行う。	1 学校行事等の参加率の増加(昨年度 体育祭、文化祭、遠足、予餞会の参加率平均89.4% 前年度比10.4%増) 2 進路指導の外部機関との連携 ・(昨年度ハローワーク、SSW、NPO 法人等) ・進路決定率100%(昨年度88.0%)		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の実態に応じて、教育相談及び生徒支援を組織的に行う。</li> </ul>	1 特別支援コーディネーター及び校内支援委員会を中心に生徒支援を継続的に行う。 2 県の事業等を効果的に活用し教育相談、生徒支援に積極的に取り組む。	1 校内支援委員会実施により全教職員と情報共有、保護者との連携(昨年度14回) ・学校生活アンケートの実施(昨年度学校生活満足度82.1%) 2 特別支援教育巡回支援員、スクールカウンセラー(SC)、スクールソーシャルワーカー(SSW)の効果的利用・退学者の減少(昨年度5名)		
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校定時制課程が地域社会において一定の役割を果たしているとの評価をいただいている。</li> <li>今後も教職員全体でその存在意義を認識し、様々な方法でその魅力を発信し、保護者や地域の理解を深めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域や中学校に本校定時制の役割と教育活動を発信する。</li> </ul>	1 本校定時制における学校生活について、ホームページを通じて、保護者や地域に継続的に発信する。 2 学校公開、学校説明会、中学校訪問、NPO 法人等訪問を積極的に実施する。	1 ホームページの更新回数(昨年度51回) ・特別支援教育研修会による小中高連携(昨年度9月実施 越谷市の小中と連携) ・中学校訪問(8、10、1月) 2 授業公開、学校行事等の来校保護者数(文化祭来場者数昨年度72名) ・学校説明会参加者数(11、1、2月)(昨年度28組参加) ・NPO 法人等の外部機関と連携(新規)		

学校関係者評価	
実施日(令和 年 月 日)	
学校関係者からの意見・要望・評価等	